

平成 24 年度 事業報告書

① 学術講演会等の開催（公益目的事業 1）

- 平成 24 年度通常総会を下記のとおり行った。

日 時 平成 24 年 5 月 10 日
場 所 タワーホール船堀（東京都江戸川区） 参加数 934 名
議 案 平成 23 年度事業報告および同決算報告

- 第 103 回日本食品衛生学会学術講演会を下記のとおり行った。

開催日 平成 24 年 5 月 10 日、11 日
場 所 タワーホール船堀（東京都・江戸川区）
学術講演会 一般演題 42 題
受賞者講演 3 題（学術貢献賞 2、奨励賞 1）
特別講演 1 題
シンポジウム 2 テーマ 9 題
参加者数 約 650
懇親会 参加者数 約 190 名

- 第 104 回日本食品衛生学会学術講演会を下記のとおり行った。

開催日 平成 24 年 9 月 20 日、21 日、22 日
場 所 就実大学（岡山市）
学術講演会 一般演題 38 題
ポスター発表 50 題
特別講演 1 題
教育講演 3 題
シンポジウム 1 テーマ 5 題
学会活性化委員会第 1 回シンポジウム 2 題
参加者数 約 550 名
懇親会 参加者数 約 200 名

- 日本食品衛生学会・日本食品微生物学会・日本食品化学学会主催

「ifia JAPAN2012・食の安全・科学フォーラム 第 11 回セミナー」を下記のとおり行った。

[テーマ：今注目すべき食品の規格と検査]

日 時 平成 24 年 5 月 23 日
場 所 東京ビッグサイト 参加者数 約 100 名

- 平成 24 年度の厚生労働科学研究（食品の安全確保推進研究）シンポジウムを下記のとおり行った。

開催日 平成 24 年 11 月 27 日
場 所 東京証券会館
テーマ 食品の安全を考える
演題数 3 題
参加者数 211 名

- ・公開講演会を下記のとおり行った。

開催日 平成 24 年 11 月 27 日
場 所 東京証券会館
テーマ 生食用食肉（牛レバーを含む）の安全性確保
演題数 1 題
参加者数 211 名

- ・第 15 回特別シンポジウムを下記のとおり行った。

開催日 平成 25 年 2 月 8 日
場 所 東京証券会館
テーマ 食品の機能性の現状とその課題
演題数 4 題
参加者数 77 名

- ・関連学会等との共催および協賛を下記の通り実施した。

共催 第 60 回質量分析総合討論会(2012)(2012. 09. 15)、第 47 回日本食品照射研究協議会
教育講演会(2012. 12. 02)

協賛 第 14 回放射線プロセスシンポジウム(2012. 06. 28-29)、第 21 回日本包装学会年次
大会(2012. 7. 4-5)、食総研・産総研ジョイントシンポジウム 2012(2012. 07. 20)、
第 16 回化学・生命科学マイクロシステム国際会議(2012. 10. 28-11. 01)、日本分析
化学会関東支部 第 53 回機器分析講習会(2012. 11. 02)、第 10 回食品安全フォー
ラム(2012. 11. 19)、第 29 回日本毒性病理学会及び学術集会(2013. 1. 31-2. 1)、
残留農薬分析 Q&A セミナー(2013. 3. 22)

② 学会誌等の発行（公益目的事業 2）

- ・学会誌等を下記のとおり発行した。

食品衛生学雑誌（6 冊）	第 53 巻 2 号	発行部数	2,400 部
	第 53 巻 3 号～6 号	発行部数	2,300 部
	第 54 巻 1 号	発行部数	2,450 部
第 103 回学術講演会要旨集		発行部数	1,000 部
第 104 回学術講演会要旨集		発行部数	800 部

③ 研究業績に対する表彰（公益目的事業 3）

- ・平成 24 年度日本食品衛生学会賞等授賞式を下記のとおり行った。

「学術貢献賞受賞者」

木村 凡（東京海洋大学）

「食品衛生微生物検査への Real time 定量 PCR 法の応用」

斉藤貢一（星薬科大学）

「食品中のアミン類のオンカラム蛍光誘導体化 LC 分析法の開発に関する研究」

「奨励賞受賞者」

六鹿元雄（国立医薬品食品衛生研究所）

「器具・容器包装のアミン類、セミカルバジド類および鉛の分析法開発と含有実態調査
に関する研究」

④ 若手研究者育成事業（公益目的事業 4）

- ・平成 24 年度厚生労働科学研究（食品の安全確保推進研究事業）の補助事業者として
若手研究者（リサーチ・レジデント）2 名を採用した。